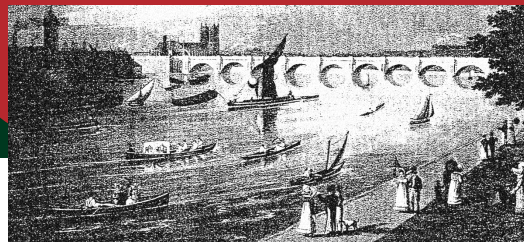


ロンドン橋、ウェストミンスター橋、クマのプーさん橋…

事典・イギリスの橋

— 英文学の背景としての橋と文化



Old Waterloo Bridge (旧ウォータールー橋)

三谷 康之 著 A5・280頁 定価 (本体6,600円+税)
ISBN978-4-8169-1877-3 2004年11月刊行

内容見本

“橋”を通して文学と文化を解説する「読む事典」

- 多くの小説・詩・童話・演劇・随筆などの舞台にもなったイギリス各地の橋について、関連の文学作品を取り上げながら解説した事典です。
- 橋の歴史的背景や建築文化から、特有の慣習・語彙まで、橋を通してイギリスの文学や文化、風俗、習慣などを知ることができます。

◆ **Waterloo Bridge** (ウォータールー橋)：この橋は「屋根つき」ではないが、上述の「嘆きの橋」(The Bridge of Sighs*) というあだ名がつけられている。この橋からテムズ川へ投身自殺を計る者が多かったことによるものである。映画『哀愁』(Waterloo Bridge)でも、ヒロインがこの橋の上を通る車に身を投げるといった結末になっている。

北岸のヴィクトリア河岸通り (the Victoria Embankment) と南岸のウォータールー地区を結ぶ。旧ウォータールー橋 (Old Waterloo Bridge) はテムズ川に渡された花崗岩 (granite) の橋で、設計者は J. レニー (John Rennie* : 1761 - 1821)。当初に予定されていた名前は「ストランド橋」(the Strand Bridge) であったが、ワテルローの戦い (the Battle of Waterloo: 1815) の

2周
名前
C. ディケンズの『ピクウィック・ペーパーズ』の第16章には、ピクウィック氏 (Mr. Pickwick) がサム (Mr. Samuel Weller) からこれまでの彼の職業遍歴を聞かされている場面があるが、サムが放浪生活を送っていた時期に、この橋の下で野宿をしていたというのである。もちろん、橋は旧橋を指す。

‘Service, sir,’ exclaimed Sam. ‘You may say that. Arter I run away from the carrier, and afore I took up with the vagginer, I had unfurnished lodgin’ s for a fortnight.’

‘Unfurnished lodgings?’ said Mr. Pickwick.

‘Yes — the dry arches of Waterloo Bridge. Fine sleeping-place — within ten minutes’ walk of all the public offices...’

— Charles Dickens: *The Pickwick Papers*

(「役立ちましたとも、旦那様。’)とサムは気持ちの高ぶりから大声を出した。「おっしゃる通りです。運送業者のところにおさらばしたあと、4輪の大型荷馬車の御者の手伝いを始めるまで、2週間というものは家具なしの宿屋にもぐりこんでいましたので。」

「家具なしの宿屋だって?」とピクウィック氏。

「そうなんです、ウォータールー橋のアーチの水のないところでして。ねぐ

マザーグース、ミルンの童話からワーズワースの詩や映画のシーンまで…

- 様々な文学作品に登場する橋の場面を例に挙げ、原文も豊富に引用。歴史的・文化的な逸話も多数記載しているので、英文学研究はもちろん、英国関連文献の翻訳資料としても役立ちます。
- 写真・イラスト200点掲載。

英文学に登場する“紅茶の風景”を交えて解説

好評
既刊

イギリス紅茶事典—文学にみる食文化

三谷康之著 定価 (本体6,600円+税) 2002.5刊

2017.11

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	事典・イギリスの橋 — 英文学の背景としての橋と文化 定価 (本体9,200円+税) ISBN978-4-8169-2506-1	冊
		冊
	■お名前	